

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

### I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #120

マルコ7.14-23 (並行テキスト：マタイ15.10-20)

14 イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた、「私が言っていることを心に留め、これを真に理解し続けるよう、あなた方全員に命じます。」

15 「外から入ってくるものによって人を汚すことはできない。<sup>MT</sup>彼らの口。<sup>M</sup>むしろ、そこから出てくるもの <sup>MT</sup>の河口 本当に彼らを汚す人です。」

すると、弟子たちがイエスのもとに来て尋ねた。「パリサイ人たちがこれを聞いてつまずいたことをご存じですか。」

16 彼は答えた。「天の父が植えなかつた植物は、根こそぎ引き抜かれてしまう。あなたたち全員に命じるが、彼らは盲目の案内人なので、そのままにしておきなさい。もし盲人が盲人を導き続けるなら、両者とも必ず穴に落ちてしまうだろう。」

17 イエスが群衆を離れて家に入ると、弟子たちはこのたとえについて尋ねた。

18 「そんなに退屈なの？」彼は尋ねた。「外から人の中に入ってくるものは何も人を汚すことができないということを、あなたは理解できないのですか。19 それは彼らの心に入るのではなく、胃に入り、そして体外に排出されるのです。」（このように言って、イエスはすべての食物が清いものであると宣言しました。）

20 彼は彼らに説明を続けました。「人から出てくるものが人を汚すのです。21 なぜなら、人の心の内側から、悪い思い、すなわち不品行、盗み、殺人、22 妄淫、貪欲、悪意、欺瞞、好色、嫉妬、中傷、傲慢、愚かさ。23 これらすべての悪は内側から生じて人を汚します。<sup>MT</sup>しかし、汚れた手で洗うことは人を汚すものではありません。」

=====

注：私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します：マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

#### コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ
タイムライン	4月（26ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

### I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

タイトル	13. イエスは罪の源を特定する
------	------------------

コメント：

の朗読では、イエスはガリラヤでの18ヶ月にわたる宣教を終えられました。第三巡回は、数々の悲痛な挫折とともに終わりを迎えるました。パリサイ人たちの偽善、拒絶、そして憎悪に遭い、死刑宣告を言い渡され、公然と悪魔崇拝者と非難されたこと、イエスが宣教した群衆がイエスを力なく連れ去り「王」にしようと企んだこと、そして弟子たちがイエスの教えの内容に満足できなくなり、こぞって離反したことなどを経験し、イエスはガリラヤでの宣教が終わったことを悟られました。

ガリラヤでの宣教が、イエスが耐え忍んできた拒絶の根本原因を問うことで終わるのは、全く理にかなっています。昨日の朗読では、イエスは偽善こそが当時の最大の罪であると示されました。この最後の教えでは、偽善への叱責に続き、人間のあらゆる罪深さの根源に迫りました。イエスは、私たちすべてを苦しめる堕落した罪深い性質の好例として、パリサイ人を用いました。これは特に効果的でした。なぜなら、イエスの時代にはパリサイ人は誰からも尊敬されていたからです。彼らは彼らはイスラエル国家の中で最も敬虔で靈的な人々であると考えられていました。弟子たちは、イエスが公然と彼らを叱責したり対峙したりすると、いつも衝撃を受けました。

イエスがこのような見解を共有しなかったのは、彼らの心の中を見通すことができたからであり、他の人々と同じように、彼らの中にも抑えきれない罪深さを見抜いていたからです。イエスは彼らの偽善を叱責しました。なぜなら、彼らは公の場では伝統に細部に至るまで従うと表明していたにもかかわらず、心は罪深い考え方や態度で満たされていたからです。

イエスはこの箇所で、私たちの罪深い人間性について診断を下されました。ガリラヤでイエスが語ったこと、行ったことの偉大さにもかかわらず、神の無条件の愛、全能の力、無限の恵み、尽きることのない慈悲、そして繊細な思いやりを明らかにしたにもかかわらず、イエスの宣教が拒絶されたのは、普遍的な罪深さによるものでした。

イエスはすべての人の中に同じ罪深い性質を見出しました。そして、靈性は外的的な行動ではなく、内面にあるものだと定義し直しました。私たちの内なる動機と態度が、私たちの行いの価値を決めるのです。

私たちの罪深い性質から生じるすべての考え方、態度、行動、言葉は、神の前に悪です。

それゆえ、イエスはリスト（マルコ7.22）を次のように始めました。 「**邪悪な思考**」 あらゆる罪深い行為の源泉。邪悪な思考（私たちの罪深い性質）は常に邪悪な行為につながる。彼はリストを次のように締めくくった。 「**傲慢と愚かさ**」 私たちの罪深い性質の根底にある傲慢さと愚かさも描写しています。

イエスが私たちの罪深い性質に特徴的な罪を挙げたのは、十戒、特に6番目から10番目の戒律に基づいています。以下にその罪を挙げます。

「**悪意、殺人**」…第6戒（出エジプト記20.13）「殺人を犯してはならない。」

「**性的不道徳、わいせつ、姦淫**」…第7戒（出エジプト記20.14）「姦淫してはならない。」

「**盜難**」…第8戒（出エジプト記20.15）「盗んではならない」

「**欺瞞、中傷**」…第9戒（出エジプト記20章16節）「偽証してはならない。」（嘘をつくこと）

「**嫉妬、貪欲**」…第10戒（出エジプト記20.17）「貪ってはならない」

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

### I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

イエスは、すべての人が、それが公に現れるかどうかに関わらず、内に秘めた罪深い性質を持っていることを知っていました。真の義を体験する唯一の方法は、神に完全に身を委ね、神が私たちの罪深さを抑えてくださる力に信頼し、神が私たちを神の愛なる性質で満たしてくださる力を信じることです。私たちの存在の根底が腐っていることを正直に認めることは、その過程におけるかけがえのない第一歩です。

イエスの言葉は決して容易なものではありませんが、完全な愛によって語られた真理です。私たちが自尊心を捨て、犯すすべての罪は、復活まで決して私たちから離れることのない罪深い性質に根ざしていることに早く気づくほど、イエスが「山上の教え」の中で真の祝福と表現した、切実さと頼りがいをもってイエスに頼ることができるようになるでしょう。

心の貧しい人、嘆き悲しむ人、柔和な人、そしてイエスの義を、御靈によって内に宿るイエスの義に飢え渴き、渴きを渴望する人は幸いです。なぜなら、彼らは自分自身の義の源泉に何の希望も失っているからです。こうした態度は、私たちの完全に罪深い性質という真実を受け入れることから生まれます。

応用：

神の前に独善的な態度を取る余地はありません。そうではないと主張するのは偽善的です。

パリサイ人のように自分の正しさを主張することは、私たちの罪深い性質について全く盲目であることを示しています。イエスが言われたように、私たちの罪深い性質の現実を認めないことは「**邪悪な考え方…傲慢、そして愚かさ。**」

**あなたの罪深い性質のどのような側面と最も闘っていますか？**

神にすべてを委ね、神があなたに勝利を与えてくださると信じるというあなたの進行中の戦いで、あなたを最も励ますものは何ですか？

**あなたの苦悩に対する神の解決策にもっと焦点を当てるために何ができるでしょうか？**